

会 議 名	第 1 回港区新技術検討支援業務委託事業候補者選考委員会
開催日時	令和 6 年 3 月 22 日（金曜日）午前 10 時から午前 11 時 10 分まで
開催場所	区役所 9 階 914 会議室
委 員	出席者 5 名 委員Ⅰ、委員Ⅱ、委員Ⅲ、委員Ⅳ、委員Ⅴ、 欠席者 なし
事 務 局	企画課デジタル改革担当
会議次第	1 開会 2 委員長・副委員長の選出について 3 事業候補者募集要項（案）について 4 提案要求仕様書（案）について 5 採点基準表（案）について 6 閉会
配付資料	・ 次第 ・ 資料 1 座席表 ・ 資料 2 港区新技術検討支援業務委託事業候補者選考委員会設置要綱 ・ 資料 3 港区新技術検討支援業務委託事業候補者選考委員会委員名簿 ・ 資料 4 港区新技術検討支援業務委託事業候補者募集要項（案） ・ 資料 4－2 質問書 ・ 資料 4－3 参加表明書兼参加資格審査申請書 ・ 資料 4－4 共同事業体構成書 ・ 資料 4－5 共同事業体協定書兼委任状 ・ 資料 4－6 委任状 ・ 資料 4－7 事業者概要及び業務実績 ・ 資料 4－8 業務従事予定者の経歴及び専任性 ・ 資料 4－9 業務従事予定者の配置計画及びスケジュール ・ 資料 4－10 企画提案書 ・ 資料 4－11 プロポーザル参加辞退届 ・ 資料 4－12 概算費用見積書 ・ 資料 5 港区新技術検討支援業務委託提案要求仕様書（案） ・ 資料 6 事業候補者の選考及び評価（案） ・ 資料 7 港区新技術検討支援業務委託事業候補者選考基準（案） ・ 資料 8 採点基準表（一次審査）（案） ・ 資料 8－2 採点基準表（一次審査価格）（案） ・ 資料 9 採点基準表（二次審査）（案）

会議の内容	
委員長 事務局 委員長	【1 開会】 ～事務局から、当選考委員会に係る確認事項、概要を説明～ 【2 委員長・副委員長の選出について】 委員長選出 副委員長選出 【3 事業候補者募集要項（案）について】 事業候補者募集要項（案）について、事務局から説明をお願いします。 （資料4に基づき説明）～詳細省略～ この件について、何か質問はありますか。 （一同、特になし）
	【4 提案要求仕様書（案）について】 提案要求仕様書（案）について、事務局から説明をお願いします。 （資料5に基づき説明）～詳細省略～ この件について、何か質問はありますか。 今回の事業は業務範囲が多岐にわたるものになっています。事業者が提案してきた際、ドローンに関してはこの事業者が優れている、メタバースに関しては別の事業者が優れている、というような状況が出てくる可能性があります。その場合1者に絞っての契約が難しくなってくると思います。 プロポーザルのため、この後は随意契約の交渉に入ることになります。相手方を1者に限定してしまうのか、複数者の可能性も含めて議論を進めるのか、また随意契約交渉をする際、業務範囲をどうするのか、見解を伺いたいと思います。
	事務局 事業者については、1者選考を考えています。ご指摘のとおり、今回区で募集する業務範囲が非常に多岐にわたっています。1者で全てを賄うのは現実的に厳しい面があると考えており、区が今後実証実験を進めていくうえでの支援はお願いしますが、ドローン・メタバースなど具体的な実証実験は別事業者に委託することを考えています。今回は新技術に関して幅広く支援をしていただける事業者を選考し、具体的な実証実験につきましては、第3四半期以降、それぞれ適した事業者を選定したいと考えています。
委員Ⅳ	承知しました。そういう意味では今回の事業者というのは、ドローンやメタバース等の各業務の遂行能力ではなく、どちらかという、技術的な目利きができる能力の方を優先して評価すべきということでしょうか。体制として、例えばスタッフを10人・20人確保できますという評価ではなく、きち

事務局 委員Ⅰ	んと技術を理解し目利きができる人間がいますという方を高く評価した方がいいということですか。
	ご認識のとおりです。
	項番１．８「取組方針」、項番１．９「業務範囲及びスケジュール」のところも含めてですが、（１）（２）（３）の関係性をわかりやすく説明していただけますでしょうか。感覚的に言えば（２）が１番先行すべきもので、調査や目利きができた段階で（１）は何をやるべきかという流れのほうが現実的だと思います。資料を見ると、並行的にすべての内容が並んでいるため、どのような関連図になっているかを教えてください。
事務局	項番１．８「取組方針」については、ご指摘のとおり区が実施したいことを並べている状態になります。３つの項目については重みづけや進めるに当たっての順位があると認識しています。おっしゃったとおり、最終的な目的は実証実験をすることではなく、区が新技術を積極的に取り入れて活用することですので、そのためには実証実験などのステップを踏まなければいけないことを承知しています。現状は並列に見えてしまっているため、順序の変更や言葉の書き換え・補足をさせていただければと思います。
委員Ⅰ	すぐに答えが出るというよりも、事業が始まった中で揉みながらまとまっていくようなものである気もします。事業者に「こんな感じです」と全て伝えるよりは、（１）（２）（３）の関係は大まかにこういうものだという考え方だけはあったほうが望ましいと思いました。
事務局	再度見直しをさせていただき、事業者には区の考えを理解して提案していただきたいと思います。
委員Ⅲ	項番２．６の「プロジェクト管理」のところで、（１）アドバイザーの要員を最低１名区役所に配置することとあり、（２）以降はそのアドバイザーとは別途、プロジェクト管理というように読めます。実際このアドバイザーに実施いただくこととして、（１）には主体的に調整や交渉を実施するとか支援を円滑に行うとあるのですが、項番１．９「業務範囲及びスケジュール」をみると、そのアドバイザーが活用されるのは第２四半期の７月から９月や、１０月から１２月であり、１月から３月まで常駐し続ける必要があるのかなというところが気になりましたが、いかがでしょうか。
事務局	確かに項番１．９「業務範囲及びスケジュール」に示したとおり、四半期ごとに支援事業者に求める役割は変わってくると思っています。一方で今後進めていく中で状況が変化する可能性があり、実証実験した結果、区の思い描いていたものから軌道修正をしなければならないという状態が随時出てくるのではと考えています。アドバイザー１名については、１年間区で方針転換があった際にも柔軟に対応していただけるよう、常に配置したいと考えています。

委員Ⅱ	常駐する要員というのは、同じ人物を考えていらっしゃるということでしょうか。
事務局	1年間通じて、同じ人物を想定しています。
委員Ⅱ	常駐が1つ目玉だと思いますが、ドローンとメタバース両方の知識を持っている人物を確保することはなかなか難しく、幅がある感じもします。スペシャリスト的な人が来てくれるかもしれないし、バックボーンにノウハウがある会社などもあるかと思います。フロントできちんとこなせる人が来るのは評価に関わる場所ですが、難しいところでもあると思っています。評価のところでもたお話しできたらと思います。
委員Ⅰ	想定予算が3,800万円ということですが、業務範囲の広さや仕事量がよくわからない部分があります。参考までに、どのような根拠があるか教えてください。
事務局	今回の公募に当たり、提案いただけない、又はいただいても金額がマッチしないということでは仕方がないため、事前に何事業者か見積もりの依頼や公募への参加意向確認などを行っています。4者中2者からは対応できるとの返事があり、金額については約1年間区に常駐し、それなりのスキルを持った人員ということで、人件費相当分が相当高くなっている状況を踏まえ、価格設定させていただいています。
委員長	他に質問はありますか。 (一同、特になし)
委員長	【5 採点基準表（案）について】
事務局	採点基準表（案）について、事務局から説明をお願いします。
委員長	(資料6から9に基づき説明)～詳細省略～
委員Ⅳ	この件について、何か質問はありますか 指摘事項が2つあります。1つは、要求事項に関する評価基準のところ、要求事項というのは仕様を満たしているか、満たしていないかで判断というご説明があったかと思います。一方で評価基準の中を見ると提案事業者の実績や資格といった、要求を満たしている、満たしていないという軸と関係のない基準があります。ここに尺度を持たせてしまう評価は矛盾するので、数の大小といった評価をしたいのであれば、要求事項ではなく提案事項で加点方式により整理したほうがいいと思います。あくまで、最低限の水準、例えば資格であれば2つ以上はないと困るということであればその有無を見るのが要求事項になります。それ以上に、たくさんあったほうが素晴らしいということであれば、それは加点の評価とすべきなので、要求事項の評価とは相容れないというのが評価基準のコメントを見たうえで思いました。 それともう1つ、委員からも指摘があったところではありますが、直感的に価格、予算額がかなり高いですね。仕事のボリュームが見えない部分があ

	るのでどうなのかというところもありますが、できれば価格点の配点はもう少し高めに設定してもよいと思います。今は割合が9%になっていますが、要求事項、提案事項、価格、プレゼンテーションという評価の中で、要求事項は基本的にみんな満点を取ってくるはずで。そうすると、事業者の優劣が決まるのは提案事項となり、提案事項の配点と、価格評価の配点は本来同じくらいのボリュームがあるのが望ましいと思っています。提案をすればするほど金額が上がるため、価格的には不利になるはずで、価格で攻めるか、良い提案で攻めるかはトレードオフになります。ここの配点は同じ点数である75点まで上げてもいいのではと思っています。区のガイドラインでは10%となっていますが、それを下回るというのは今回の事業にはふさわしくないので、各評価の配点自体はもう一度見直していただければと思います。
事務局	提案事項と要求事項については改めて整理をさせていただき、記述を修正させていただきます。2点目について、価格が今回非常に高くなっていますので、提案と価格の関係性が重要ということを踏まえまして、割合を少し高めにするような形で調整させていただきたいと思っています。
委員Ⅳ	よろしくお願いします。
委員Ⅰ	採点表なのですが、それぞれ委員が採点するところが2.1から2.5までありますが、例えば2.1の中に2.1.1のように細分化するのはどうでしょうか。29ページの要求事項をみると、2.1の中に内容が6つ存在します。(1)から(6)が提案書に書かれているのかどうか、内容的にOKなのかということで、○×△をつけやすいと思います。それを総合して積み上げた結果が2.1の評価とし、その積み上げの根拠が示されていた方が客観性があると思います。「一部の要件を満たしている」という言い方も曖昧で、通常の評価はおそらく3点がスタートだと思いますが、そこからどれだけ根拠を示すかが重要であるため、根拠を明確にする考え方もあると思います。各項目の重みを変えるのかなど、そのあたりのバランスが煩雑になるとは思いますが、そういう考え方もあると思いました。これはあくまで提案のため、事務局のほうで客観性がある、根拠的に説明しやすい、委員が評価するとき混乱しないようにという観点で判断いただければと思います。
事務局	ご指摘のとおりだと思いますので、改めて採点基準表は記述も含めて、体系立てて採点しやすいような形で修正させていただきます。
委員Ⅲ	今のお話に関連して、1次審査要求事項にある責任者及び常駐スタッフの本業務に有効な専門能力・資格について、実際に技術に対して有効な専門能力なのか、プロジェクトを回すにあたって有効な専門能力なのかとか、どういう基準で採点したらよいのか分かりにくいという感覚を持っています。同様に、提案事業者の実績についても、プロジェクトを回すにあたっての実績なのか、技術に対しての実績なのか、自治体での業務等、技術を生かす先につ

	いての実績なのか、提案者によってはなるべく盛り込もうとしますが、採点者側としての基準が仕様書から見えてこないなのでその辺りも整理いただけたらと思います。
事務局	委員Ⅳからもご指摘があったとおり、今回どういう事業者を求めるのかという点に結びつくところかなと思います。仕様書修正の際、事業者に区が求めていることがわかるように修正したいと思います。
委員Ⅱ	点数のところは、今までの委員の発言と私も同じで、要求事項は最低必要となる項目だと思います。提案事項でどれだけ他の事業者と差ができるかという話だとすると、ドローンとメタバースがそれぞれ 15 点で、その他の技術も 15 点ですが、その他の技術でまだ導入されてない新技術は提案書のように本当にいっぱいありますよね。どれも面白く可能性があって、どういう提案が出るか分からないですけど、2.3のその他新技術の活用を検討、実証実験支援というのは 15 点では少なすぎるのではないかと考えています。1つの技術で 15 点であることから考えても。区としてドローンとメタバースは特にやってみたいということの意思表示だと思いますが、もう少しこの2.3のところは点数を上げた方が、バリエーションが増えていいのではないかなという意見です。
事務局	幅が広いため、どこに重きを置くかというところだと思います。ドローンとメタバースはある程度可能性が高いと考えており、その割合を高めにしていきます。それ以外についても、区の中で様々な活用ができるだろうなという思いはありますが、具体的な案が現状無いことから、抑え目にしています。このあたりは他の委員の皆様のご意見もお伺いし、点数を検討したいと思います。
委員Ⅱ	港区で考えるとドローンは山間地のイメージで、都会でどうなのかってところとか、メタバースは個人的にすごく懐疑的なところがあったりするので、どのような提案が来るのかすごく楽しみではありますが、生成AIなども旬で私はそちらに興味があります。その他の部分は、可能性が色々あるのではと思っています。
委員Ⅴ	委員Ⅱがおっしゃったとおり、各項目の満点が同じとなっていますが、ドローンとメタバースのみならず更なる新技術の提案を求めているところもありますので、もう少し加点して他と差をつけてもいいと感じました。先進自治体の視察支援や補助金の活用支援という部分も一緒ですので、やはり今回新たに事業者に求めるという部分では、2.3のその他新技術について、例示はされていますが、何ができるかという可能性を見ていくために少し比重をかけてもいいと感じました。
委員Ⅳ	事務局に確認したいのですが、その他の新技術というのは今回の事業でいうと多いほうが嬉しいですか。そうであれば、この評価は提案事項というか、加点のほうに回したほうがいいのかもかもしれません。あれもこれもできますとい

事務局	う事業者に対して、要求事項の満点の枠に収まりきらない可能性もありますので、要求事項を満たした上に、さらに加点ができますという整理のほうが評価しやすいかもしれないですね。 区としては可能であれば、様々なものに取り組み、区として有益かどうか判断したいと思いますので、数は多いほうが良いと考えています。全体の体系を見直し、割合が増える形で修正させていただきたいと思います。
委員長	積み上げていくような、他と違った採点基準があってもいいのかもしれませんが。委員の方からの意見を踏まえ、ご検討をお願いします。 他に質問はありますか。 (一同、特になし)
委員長	それでは、ご意見を踏まえ修正された資料をもって、事業候補者選考を実施するということで決定してよろしいでしょうか。 (一同、異議なし)
委員長	そのほか、これまでの議事以外に皆様から何かございますか。 (一同、特になし)
委員長	それでは、今後の進め方につきまして、委員の皆様が体調不良等により第2回、第3回の選考委員会を急遽欠席された場合の取り扱いについてですが、その際は委員長に一任いただき、内容については後日事務局の方から欠席した委員に説明するというご承知いただきたいのですが、それでよろしいでしょうか。 (一同、異議なし)
委員長	【6 閉会】 予定された議題は終了しました。
事務局	最後に事務局から連絡事項をお願いします。
事務局	各事業者から提出された提案書は、5月8日までに事務局からお送りをさせていただきます。お忙しいところ、大変恐縮ですが、委員の皆様には5月15日までに評価結果を事務局までご提出いただきますようお願いいたします。次回、第2回選考委員会は、5月20日の午前10時から正午までを予定しています。改めて開催のご案内をさせていただきます。 事務局からの連絡事項は以上となります。
委員長	それでは、これで第1回港区新技術検討支援業務委託事業候補者選考委員会を終了いたします。